令和6度 学校関係者評価アンケート集計

※評価点(4段階による)

4:達成できている 3:ほぼ達成できている 2:あまり達成できていない 1:全く達成できていない

1 学校経営全般

	評 価 項 目	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	平均
1	学校の教育方針や教育活動の内容に共感できるか。	4	4	3	3	4	3.6
2	学校は、学校教育目標や教育方針に沿った教育活動を実践しているか。	4	4	3	3	3	3.4
3	校長のリーダーシップの下,職員が学校経営や教育活動に創意を凝らし,魅力ある学校づくりに取り組んでいるか。	4	4	3	3	4	3.6
4	拓かれた学校づくりと、特色ある教育活動を実践しているか。	4	4	3	3	4	3.6

2 教務部

	評 価 項 目	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	平均
1	年間行事計画に基づいて、学校行事等の運営を適正かつ計画的に行っているか。	4	4	3	3	4	3.6
2	各教科は主体的・対話的で深い学びの視点からの授業研究を積極的に行っているか。	4	4	3	3	3	3.4
3	各教科は授業で生徒の学力定着のために、教育機器等を効果的に工夫したり活用したりしているか。	3	4	3	3	3	3.2
4	積極的に授業公開等を行い, 地域の方々にも本校の授業及びその取組を理解してもらうように努めているか。	4	3	2	3	3	3. 0

3 生徒指導部

	評 価 項 目	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	平均
1	各教室の整理整頓や挨拶,服装チェック等を通じて生徒に基本的生活習慣の定着を図る取組をしているか。	4	4	3	4	3	3. 6
2	ボランティア活動への参加や学校行事の運営への積極的な取組がなされているか。	4	4	3	3	4	3. 6
3	保健だよりの発行などにより生徒の健康への意識高揚の取組を行っているか。	4	4	3	3	3	3. 4
4	生徒相談の充実が図られているか。	4	4	3	3	3	3. 4

4 進路企画部

	評 価 項 目	A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	平均
1	学習の方法(ATLスキル)を意識した探究活動の実践しているか。	4	4	3	3	3	3. 4
2	生徒の明確な進路意識の確立に取り組んでいるか。	3	4	3	3	3	3. 2
3	学生徒個々の目標達成のための学力向上の取り組みを講じているか。	4	4	3	3	3	3. 4

令和6年度 IB(国際バカロレア)の定めるATT(指導の方法)に対する教員の自己評価

2025/2/15

	Т		はばムッ	の単元で	の単元で	2025/2/15 それ以外			
項目	No.	質問内容				1		i	
		1) 8 月 元)) (中央統領 4 4 4 5 台灣 (中央 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	R6	R5	R6	R5	R6	R5	
	1	トピックについての情報を生徒自身で探すよう働きかける。	32.4%	30.3%	32.4%	33.3%	35.3%	36.4%	
		提案や決定をする機会を生徒に与える。	38.2%	36.4%	29.4%	30.3%	32.4%	33.3%	
	3	既存の知識や経験を基盤にするよう生徒に働きかける。	41.2%	33.3%	47.1%	54.5%	11.8%	12.1%	
	4	生徒中心のアプローチを採用する。	29.4%	30.3%	44.1%	36.4%	26.5%	33.3%	
brown a thing I have been	5	上になり対比を対し、1日1日内474であるノガックの	67.6%	54.5%	32.4%	39.4%	0.0%	6.1%	
a 探究を基盤とする指導	6	AV.C. 1/2/2 0 4 1 2 4	67.6%	69.7%	29.4%	27.3%	2.9%	3.0%	
	7	教師の役割は、単に答えを与えるだけではなく、問いを促すことであると捉える。	61.8%	63.6%	32.4%	18.2%	5.9%	18.2%	
		生徒がリソースを見つけ、アクセスするのを助ける。	35.3%	45.5%	44.1%	39.4%	20.6%	15.2%	
	9	生徒が自分自身の学習により責任をもつよう働きかける。	47.1%	51.5%	32.4%	30.3%	20.6%	18.2%	
	10	7 11 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	35.3%	51.5%	50.0%	27.3%	14.7%	21.2%	
	11	探究を地域社会の文脈とグローバルな文脈の中に位置づける。	5.9%	15.2%	29.4%	33.3%	64.7%	51.5%	
	1	授業計画および授業の中で、中心的な概念を特定する。	50.0%	45.5%	17.6%	27.3%	32.4%	27.3%	
	2	トピックの背後にある「ビッグアイデア」を生徒がとらえられるようサポートする。	11.8%	15.2%	32.4%	24.2%	55.9%	60.6%	
	3	古い知識と新しい知識のつながりをつくるよう生徒を促す。	23.5%	27.3%	38.2%	24.2%	38.2%	48.5%	
b 概念的理解に重点を置いた	4	学んだことを新たな文脈に転移するよう生徒に働きかける。	14.7%	30.3%	58.8%	24.2%	26.5%	45.5%	
り 成心の理解に単点を直ぐに 指導	5	他の科目で学習している概念との間につながりを見つけるよう生徒を促す。	5.9%	15.2%	23.5%	21.2%	70.6%	63.6%	
	6	抽象的な概念を、実生活における例やケーススタディーに落とし込む。	14.7%	18.2%	50.0%	36.4%	35.3%	45.5%	
	7	概念マップなどのツールを使うことを奨励する。	5.9%	6.1%	14.7%	12.1%	79.4%	81.8%	
	8	生徒がパターンやつながりを見つけるのを助ける。	8.8%	24.2%	44.1%	27.3%	47.1%	48.5%	
	9	異なる種類の問い(事実に関する問い、概念的な問い、議論の余地がある問い)を投げかける。	35.3%	27.3%	20.6%	33.3%	44.1%	39.4%	
	1	自分自身の経験やバックグラウンドから得られた見識を生かすよう生徒に働きかける。	35.3%	33.3%	38.2%	33.3%	26.5%	33.3%	
	2	時事問題における実例に言及する。	20.6%	30.3%	41.2%	24.2%	38.2%	45.5%	
	3	多様な文化への理解を育むための機会を生徒に与える。	14.7%	30.3%	41.2%	48.5%	44.1%	21.2%	
c 地域社会の文脈とグローバル	4	生徒がグローバルな関わりをもつことを奨励する。	23.5%	30.3%	44.1%	39.4%	32.4%	30.3%	
な文脈において展開される指	5	学習していることの背後にある「全体像」を生徒がとらえられるよう、サポートする。	20.6%	30.3%	38.2%	27.3%	41.2%	42.4%	
導	6	抽象的な概念を、実生活における例に落とし込む。	23.5%	27.3%	38.2%	27.3%	38.2%	45.5%	
	7	開発、対立、権利、環境などといった、グローバルな問題を探究する。	14.7%	12.1%	26.5%	30.3%	58.8%	57.6%	
	8	問題やアイデアの複雑さや不確かさを生徒が理解できるよう助ける。	20.6%	30.3%	38.2%	24.2%	41.2%	45.5%	
	9	問題やアイデアを複数のものの見方からとらえることを奨励する。	23.5%	42.4%	52.9%	24.2%	23.5%	33.3%	
	1	ディベート、ロールプレイ、グループプロジェクトなどといったグループ活動を取り入れる。	29.4%	33.3%	26.5%	30.3%	44.1%	36.4%	
	2	わからないときは気兼ねなく質問をするよう生徒に働きかける。	85.3%	78.8%	11.8%	21.2%	2.9%	0.0%	
	3	「教壇上の賢者」ではなく、「学習経験の仲介者」になろうとする。	64.7%	72.7%	23.5%	15.2%	11.8%	12.1%	
	4	他の生徒のアイデアを発展させたり、広げたりする機会を生徒に与える。	38.2%	54.5%	44.1%	21.2%	17.6%	24.2%	
d 効果的なチームワークと協働 を重視する指導	5	全生徒が情報やアイデアを共有するよう促す。	32.4%	54.5%	41.2%	30.3%	26.5%	15.2%	
C 五元 7. 公田寺	6	チームワークおよび恊働を促進する方法としてテクノロジーを活用する。	29.4%	51.5%	38.2%	24.2%	32.4%	24.2%	
	7	協働作業において責任を共有する機会を生徒に与える。	32.4%	42.4%	29.4%	12.1%	38.2%	45.5%	
	8	議論の際に他の生徒を尊重するよう、生徒にはたらきかける。	44.1%	51.5%	32.4%	21.2%	23.5%	27.3%	
	9	聞いたことを自分の言葉に置き換える「アクティブリスニング」を奨励する。	11.8%	24.2%	20.6%	21.2%	67.6%	54.5%	

項目	M	No. 質問内容	ほぼ全ての単元で		半分ほどの単元で		それ以外	
垻日	IVO.		R6	R5	R6	R5	R6	R5
	1	全生徒に対して、現実的でありながらも高い期待をもつ。	58.8%	60.6%	29.4%	21.2%	11.8%	18.2%
	2	すべての学習者を歓迎するような環境づくりにつとめる。	76.5%	81.8%	20.6%	9.1%	2.9%	9.1%
	3	クラス内にある文化的視点の多様性を活用する。	26.5%	27.3%	29.4%	24.2%	44.1%	48.5%
	4	生徒の既存の知識を活性化させる。	32.4%	42.4%	50.0%	39.4%	17.6%	18.2%
	5	アイデアや情報を異なる媒体または形式で提供する。	23.5%	33.3%	52.9%	27.3%	23.5%	39.4%
e すべての学習者のニーズを 満たすために差異化した指導	6	一人ひとりの生徒が自分の学習目標を達成できるようにする。	35.3%	60.6%	47.1%	21.2%	17.6%	18.2%
INTO / TOST - ALL TOTAL STATE	7	授業をできるだけ魅力的で、取り組みやすく、意味のあるものにしようと努める。	70.6%	69.7%	26.5%	27.3%	2.9%	3.0%
	8	優秀で才能あふれる生徒にとってチャレンジとなるような、発展学習のためのアクティビティーを含める。	29.4%	30.3%	55.9%	42.4%	14.7%	27.3%
	9	生徒を個々の学習者としてとらえる。	73.5%	81.8%	20.6%	18.2%	5.9%	0.0%
	10	新たな学びを支える目的で視覚教材を活用する。	58.8%	57.6%	26.5%	27.3%	14.7%	15.2%
	11	協働学習のグループや生徒同士のサポートを活用する。	64.7%	60.6%	20.6%	21.2%	14.7%	18.2%
	1	成果物ごとに生徒に個別のフィードバックを提供する。	26.5%	27.3%	32.4%	33.3%	41.2%	39.4%
	2	課題に対し、エビデンスに基づいたフィードバックを提供する。	23.5%	24.2%	38.2%	30.3%	38.2%	45.5%
	3	形成的評価から得られた情報をもとに、単元の残りの部分の計画を調整する。	14.7%	21.2%	44.1%	36.4%	41.2%	42.4%
	4	評価課題について、生徒同士でフィードバックをする機会を設ける。	14.7%	24.2%	44.1%	24.2%	41.2%	51.5%
- Set for And D. H. Set for J. J which let	5	各生徒の強みと弱点をつかむために評価課題を活用する。	23.5%	36.4%	32.4%	15.2%	44.1%	48.5%
f 評価(形成的評価および総括 的評価)を取り入れた指導	6	協働が必要な評価課題を設定する。	14.7%	33.3%	47.1%	15.2%	38.2%	51.5%
San Ilmi C. S. S. Marcilla d.	7	生徒が自分の成果物の評価について振り返る機会を提供する。	26.5%	30.3%	35.3%	30.3%	38.2%	39.4%
	8	以前に提出した成果物を見直し、改善するように生徒を促す。	8.8%	21.2%	38.2%	24.2%	52.9%	54.5%
	9	MYPの試験で使われる指示用語を生徒が理解するためのサポートを提供する。	32.4%	27.3%	20.6%	21.2%	47.1%	51.5%
	10	評価課題の具体的な目的を生徒に示す。	50.0%	45.5%	23.5%	27.3%	26.5%	27.3%
	11	課題の評価規準を生徒が明確に理解できるようにする。	50.0%	45.5%	20.6%	21.2%	29.4%	33.3%